

## <巻頭言>



# 新年を迎えて

網野 定三\*

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、皆様の益々のご活躍と当会の発展を心からお祈り申し上げます。

昨年世界は、大規模なテロや異常気象による自然災害が多発し、経済的にも、世界同時不況の様相を呈するなど、新たな不安が広がりました。日本でも日韓共催のW杯、ノーベル賞のダブル受賞などの明るい話題もありましたが、日本経済の長期低迷とその復活への道筋が見えず、大企業等の不正や不祥事、拉致問題など、概して暗く複雑な課題が多い年でありました。またこれらの中には、私達にも関連する課題もあり、今後の早急かつ適格な対応が望まれます。

さて、国際大ダム会議第70回例会がブラジルのイグアス市で開催され、日本からも多数参加され、日本の技術の発信、諸外国との交流など期待通りの成果を収めました。また、この機会に視察した巨大なダムと発電所は、いずれも世界最大級で、その迫力は南米大陸の大自然の魅力とともに強い印象を与えました。

ブラジルは21世紀の大国と云われ、現状は貧困、失業、人種差別等の様々な社会問題を抱えているものの、広大な原始林、世界最大を誇るアマゾンの豊かな流れ、その下に眠る無限の資源、更には国民の願いを込めて建設された新首都のブラジリア等々は、いずれも未来の発展を象徴するもので、21世紀はブラジルの世紀と呼ばれる所以であります。

しかしこの実現には、大量の電力、エネルギー、水等が不可欠であり、今後も引き続き大規模開発が期待されています。

一方資源の宝庫であるアマゾンには、焼畑農業をはじめ、世界の大企業による種の収奪や、大規模牧場の拡大等により、森林の伐採と生態系への影響が急速に拡大し、ブラジル政府は、先進国や国際機関に対して、事体の深刻さと、その保全のための支援を訴えています。アマゾンの保護は、地球環境対策からも世界的に重要であり、その中での開発は1992年リオ・サミットで合意された持続可能な開発であっても、その実現には様々な克服すべき課題が多く、あらゆる分野の科学技術と資金など、国際社会の理解と支援が不可欠であります。日本とブラジルは、

\* (株)日本大ダム会議 会長、(開発工事(株) 顧問)

はるか遠い国であります。古くから交流があり、現在もODAを中心としあらゆる分野で協力が行なわれており、特に日本の技術者は地元民から高く評価されています。今後も日本への期待が大きく、若い技術者には魅力ある活躍の場であると思われ、今後の挑戦が期待されます。

昨年、水問題と世界で多発した自然災害が、大きな話題となりました。日本でも新聞、雑誌等が特集を組むなど、年間を通して報道され、その重要性が指摘されました。特に水問題は、昨年のヨハネスブルク・サミットで初めて大きく取り上げられ、その対策について具体的数値、期限目標が明示され、実施計画が合意されるなど、大きな前進がありました。更に本年3月、第3回世界水フォーラムが京都で予定されており、その成果に関係者の期待が高まっています。

これらは、いずれも古くて新しい問題にもかかわらず、その対策が先送りされ、貧困や飢餓、大都会の失業などの社会問題が、益々深刻になってきたことにあると思われ、今後の対応は、国情により、様々であるが、具体的対策は議論から実行段階にあり、特に途上国では緊急の課題となっております。

このような内外の状況の中で、昨年当会と水文・水資源学会との共催により、水をテーマとした、国際セミナーを開催しました。国際大ダム会議総裁をはじめ、内外の著名な方々を講師にお迎えし、多くの方々が参加され、時宜を得たテーマであったこともあり、期待通り盛況となりました。

世界の水問題の実情や、その対策と目指す方向など、様々な議論がありましたが、いかなる対策でも、ダム貯水池が今後とも中心的な役割を担うことでは、各国とも共通の認識であります。また我が国の目指す「流域における健全な水循環系の構築と、流域の総合的な管理」は実施に際しては多くの課題もありますが、今後の方向性を示唆するものであり、一層の進展が期待されます。また、これらの成果は、今後の世界の水問題の解決に貢献できるものであります。

最近国土交通省所管の直轄ダム、水資源開発公団のダムを対象に水源地域ビジョンを目指した取り組みが進められています。これは水源地域の活性化とその発展を図るため、総合的整備を行なうものであります。本来ダムは寿命が長く、次世代に引継がれていくものであり、後世からも評価されるものでなければなりません。そのためにも、社会や自然と調和し、地域社会に根ざした魅力ある水源地域の将来像を明確にし、それを目標に着実に整備を図ることは、持続可能なダム事業にとって、重要であります。引き続き、地域の特性を生かした魅力あるビジョンとその実現に期待したいと思います。

以上の通り、昨年も私達に関連する世界的な話題も多く、国際協調の必要性が益々高まっております。日本大ダム会議は、本年も視野を世界に広げ、様々な活動を通して、内外に貢献して行きたいと考えています。皆様の積極的な参加とご協力をお願いし、新年のご挨拶と致します。